

# 前へ

岐宿中学校だより  
文責：都々木

## 長崎新聞「ジュニア俳壇・歌壇」入選

本校国語科では、俳句・短歌の新聞投稿を続けています。ほぼ毎回、本校生徒が入選し掲載されています。若い感性がキラリと光るいい作品をご紹介します。

【秀逸】

かえる鳴く湿った闇夜ふるわせて

三年 関田 結



「湿った闇夜」が上手い！梅雨と田植えの季節を一度に表現しています。

【佳作】

夜の空に星に混ざって蛍とぶ

三年 谷川 真希



なるほど！星と蛍の競演はさぞきれいでしよう。見たい！と思わせますねえ。

我が胸に命を伝える滝の鼓動

三年 山下善二郎

「滝の鼓動」は心臓かな？強い決意をした時の血液が沸騰するような力強さを感じます。

友の恋聞いてるだけでうらやましい私も  
その恋わけてほしいな 二年 川上 碧月

いつの時代も「恋ばな」は若者の特権。でも、恋は分けられないだよねえ。

盛り上がる部活帰りのおしゃべりは夕食  
前の一つの楽しみ 二年 谷川 泰成

そうそう。あった、あった。でもバスの中では節度を持って。

県大会一本にかけて戦って一本とれずに  
悔しい涙 二年 山中 颯太

「悔しさ」は成長の肥料。涙は心の汗、というのほちよつと古いか？



子どもたちの心のねっこを育てるために、大人のあり方を見直し、みんなでも育てる県民運動です。毎年7月は強調月間。子どもの問題にしっかりと向き合い、口を出す大人があふれる地域に非行はありません。

この県民運動の一貫として「**家庭の日**」(毎月**第3日曜日**)が設けられ、部活動も原則休みとなっています。制定当時の調査「子どもたちが望むこと(小学5年生)」によると、

- 1位 良いことをしたときは、ほめたり認めたりしてほしい。
- 2位 家庭そろうって楽しむ時間をつくってほしい。
- 3位 特にない。

子どもが何らかの役割を担う、家族そろって楽しむ『何か』をし、よく出来たことをほめる機会をたくさんつくって頂くようお願いいたします。「(望むことは)特にない」という答えは、「大人には期待していない」ということなのかも知れません。次の「家庭の日」は、七月十五日。幸いにも三連休！です。

### ふるさとと教育

ある生徒がつぶやいた言葉。

「**岐宿の新米が美味すぎて茶碗十杯食べた。**」



「岐宿ん米はうんまか。日本一ぞ。」と語る保護者の姿が目につかびます。どこの学校でも「ふるさと教育」に取り組んでいます。ご両親の、祖父母の、地域のおじちゃん、おばちゃん「ふるさと自慢」に勝るふるさと教育はありません。「ふるさととは、両親だ」というのが私の持論ですが、続きは次回に。御先祖様を自慢する、地域を自慢することが、子どもたちに郷土愛を育みます。

(雑感) 試験期間中につき部活休みである。単純に普段より二時間以上の時間が浮く。その時間を「テスト勉強」にあてさえすれば・・・とは、教員の勝手な願いだ。▼「自らを省みればとても偉そうなのは言えない」と思う教員は私だけだろうか？だからと言って、勉強しないことを黙認する訳ではない。「人は誰しも弱い存在である」ということを認めたいだけだ。ましてや未熟な中学生である。そこで提案を二つ。▼「2勝1敗で」と「とにかく机に向かう」こと。▼「2勝1敗で」・・・学習の計画を立てても、その通りに実行することはかなり難しい。1日乱れると挽回しようと焦り、結局翌日も実行できない。2日実行出来なければ「やあめた」となってしまふのが意志薄弱な私。3日に1回は勉強しない自分を許してしまうのだ。これならやれそうな気がする。意志の弱い自分を嫌にならなくて済む▼「とにかく机に向かう」・・・吉田兼好は、「筆執れば、物書かれ、楽器を取れば、音をたてん、と思ふ・・・心は必ず、ことに触れて来る」と言っている。「筆を持つと物を書きたくなるし、楽器を持てば音を立てなくなる。心というものは、何かに触れた後にいて来る」。まず形から入れというのだ。勉強をする気になるのをずっと待たなくてもダメ。とにかく机に向かう(形)さえすれば、段々とやる気はわいて来る・・・ハズデス▼ともあれ、「量より質」なのか、「量は質を凌駕する」なのか結論は持たないが、どちらも正しい気がする。少なくとも、TV・ゲーム・スマホ等のメディア機器は遠ざけて欲しいものだ。

何かを選択するとは、  
何かを捨てるということ。

メディア捨てますか？勉強捨てますか？

子どもに伝えたい「いい言葉」